

2026 年 5 月 12 日

 千代田化工建設株式会社
 財務企画室 IR グループ

2026 年 3 月期 本決算 説明会 質疑応答要旨

5月11日に開催致しました2026年3月期 本決算説明会(オンライン)において、出席者の皆様から頂いた主なご質問と弊社の回答を以下にまとめております。

#	質問	回答
1	中東情勢の影響	
	中東情勢の影響により、遂行中のプロジェクトにどの程度の影響が出ているのか。	<ul style="list-style-type: none"> 4Q 業績に影響はほぼない。カタール NFE に関しては、従来の水準に戻って稼働している。一方で、国内外案件で材料不足や資材、輸送費などの影響が出る可能性があり状況を注視している。
	損害を受けたカタールの LNG プラントの復旧需要について、なにか顧客と話をしているのか。	<ul style="list-style-type: none"> 損害を受けた既存プラントは公表されている通り当社が納入したもの。 どのような被害状況かを確認し、撤去が必要かを確認、その上で最終的に復旧工事の EPC となり、その初期段階である被害状況や撤去方法など顧客と会話を開始している。 顧客が開示しているが、最終的には被害を受けた機器の調達、設置が必要になり、顧客公表は 3-5 年の期間が必要になる。
2	業績予想	
	25 年度実績値と 26 年度予想値の差異を整理してほしい	<ul style="list-style-type: none"> 25 年度の完工総利益は 1,005 億円。うち 615 億円が一過性要因で、ゴールデンパス LNG (GPX) の引当戻り 370 億円、為替影響 100 億円、その他国内外案件を含むもの。 そこからカタール NFE で 1st train がピークアウトする影響等を織り込み、26 年度の完工総利益は 300 億円と見込む。 完工高については、25 年度の実績 4,939 億円から GPX の影響として過去発生した完工高 1,000 億を除き、NFE 等のピークアウトを考慮した結果 3,400 億円となるもの。
3	受注	

#	質問	回答
	今期の受注計画 3,000 億円は大半が国内向けだが、中長期的な視点におけるグローバルなプラント需要を踏まえた取り組み方針は。	<ul style="list-style-type: none"> 中長期のミックス(国内外案件) 比率だが、現中計期間中は海外の取り組み方改革としてのチャレンジが必要になることから、国内をより盤石にするため、国内案件の比率が増えると考えている。 ただ、中長期に考えて国内だけをやる会社が変わっていくつもりもなく、国内もやり海外も成長推進本部、全社営業を進めて受注ができる体質に変える。次期中計以降になると思うが、海外の比率を増やしていく。 現状中東の比率がどうしても大きいですが、今後はアメリカ・アジアなどバランスよく取り組んでいきたい。
4	海外案件への取り組み方針	
	成長推進本部設置の狙いは	<ul style="list-style-type: none"> 従来であれば営業部隊が客先に行って、ニーズを聞き提案するものだったが、LNG 案件などを中心にやや受動的な面があった。 これからは自分たちがより差別化できる商品・技術をどういう顧客に対して何が出来るかという点で、技術部隊も一緒になって、会社全体でアプローチするという問題意識のもと成長推進本部を作った。 優秀なリーダー格となるエンジニアも異動させて、営業をかけていくことを今年、来年でしっかりやっていきたい。
5	A 種優先株式の償還	
	A 種優先株式の償還額 551 億円はどのような計算に基づくものか。 次の償還スケジュールタイミングはいつか	<ul style="list-style-type: none"> 配当(償還)原資である単体の剰余金 551 億円に基づくもの。 次回の償還は来年度の決算後を予定しており、残り 300 億円弱を 2 年(28 年 6 月まで)で償還する予定。

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えください。よろしくお願いいたします。